

図版②



陰<sup>いん</sup>

符<sup>ふ</sup>

經<sup>きよう</sup>

7世紀  
(唐時代)

魏晉唐小楷

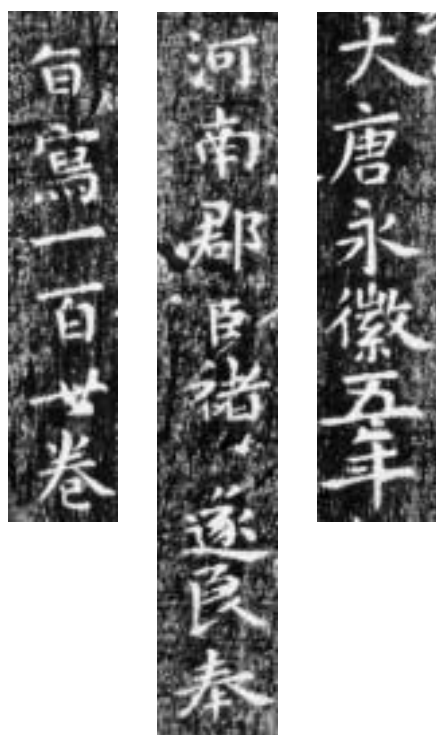
⑦

木

木雞室

伊藤 滋

図版③ 卷末の紀年と筆者名



『陰符經』は、『黄帝陰符經』とも称せられる。道教における修養の經典の一である。五世紀頃に成立し、唐末から宋時代にかけて大いに流行したとされる。以後、道教だけでなく儒教の世界からも注目され現代に引き継がれている。書の古典としては、唐の褚遂良筆と伝えられる『草書陰符經』『楷書陰符經』が、宋の郭忠恕による『篆書隸書楷書三体陰符經』(原石は西安碑林博物館のある。)などがある。今回は、唐の褚遂良筆と伝えられる『楷書陰符經』を示した。前回と同じく、『停雲館法帖』巻一に収録されているものである。左頁の図版に全体を原寸大で示した。一行あたり二十四字からなり全体で四百字ほどの短い作品である。巻末には、永徽五年(654)に褚遂良が書いたとの刊記がある。清朝の研究者の中には、

肯定するものもあれば否定するものもある。褚遂良の書とする確かな根拠はない。しかし書は、細字ながらもやや扁平な結構を示し、伸びやかで字形の構成も工夫がこらされ、偏と旁の組み合わせなどに巧みな均衡を見ることが出来る。僅かであるが、行書風に点画を続けた文字も見られる。

次号は『小字麻姑仙壇記』で、小楷特集は一応終了します。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋

メールアドレス [mokkei@galaxy.com.ne.jp](mailto:mokkei@galaxy.com.ne.jp)

陰符經  
觀天之道執天之行盡矣故天有五賊見之者昌五賊在心施  
并於天字宙在乎手萬化生乎身天性人也人心機也五天之  
道以定人也天發殺機日月星辰地發殺機龍蛇起陸人發殺  
機天地反覆天人合發萬變定禍發必剋奸生於國時動必  
潰知之修練謂之聖人天地萬物之禍發必剋奸生於國時動必  
盜三盜既宜三才既安故曰食其時百骸理動其機萬化安人  
知其神而神不知不神所以神日月有數大小有定聖功生  
神明出焉其盜機也天下莫不見莫能知君子得之固窮小人  
得之輕命瞽者善聽聵者善視絕利一源用師十倍三反晝夜  
用師萬倍心生於物死於物機在目天之無恩而大恩生迅雷  
烈風莫不蠢然至樂性餘至靜則康天至私用之至公禽之  
制在氣生者死之根死者生之根恩生於害害生於恩愚人以  
天地文理聖我以時物文理哲自然之道靜故天地萬物生天  
地之道浸故陰陽相推而變化順矣至靜之道律呂所  
不能契爰有奇器是生萬象八卦甲子神機鬼藏陰陽相勝之  
術昭昭乎進乎象矣

陰符經

大唐永徽五年歲次甲寅正月初五日奉

旨造

尚書右僕射監修國史上柱國河南郡臣褚遂良奉  
旨寫一百廿卷

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2010)



2009年青森新町「NOVITA」素雪個展作品



坂本素雪

### 「不均衡の均衡」

昨年(2009年)青森市の小さなギャラリーで個展を開いた。これまで、二人展、三人展、グループ展、またはジャンルの違う方々との開催は十数回を優に超える。しかし、一人での書展は初めての事でもあり、少し不安もあったが何とか無事終了した。

書展のタイトルは「Imbalance」なぜなら、私の書作は全てこれを基本としているからである。勿論、言葉から受ける感情表現を第一に置くが、感情を高ぶらせて思うが儘に書く方もあるだろう。しかしそれを内に秘め、計算づくで、一字の造形、行のバランス、行間のバランス、紙面構成に対するバランスを全てアンバランスにして、線に於ける造形美と空間美を見出す。

たとえば、人を片足で立たせたとき、倒れまいと手足を動かして自然にバランスをとる。この倒れまいと堪える姿が一番美しいとされている。誰に聞いたか何を読んで知ったか今は定かでないが、永年これが脳にへばりついているから作品制作の時は常に、字形にしても構成にしても自然にアンバランスを求める。しかし、アンバランスのままでは、人も倒れてしまう。微妙に調整し何とかギリギリのところに「美」を求める。私の場合、文字を構成する時、面積に対して重さでバランスをとる。細線と太線、渴筆と潤筆、これと字の造形により絶妙なバランスをとる。一字のみだけでなく、それは字の群れの中とか、行間とか、紙面全体を考えた字の配置にも及ぶ。時には空間も重さになる。

以上が私の作品制作に対する考えだが、別に特殊なことではない。日本古来の古筆「かな」の美がそれを証明している。特に継色紙の空間美などは、現代詩文書の感性を高めるには欠かせない資料である。古筆を自分の書法のプロセスとして考え、そこから書芸術を求めていく。アンバランスのバランス、この中に未知数の目に沁みるような美が存在しているのである。

# 書のひろば

理事長 辻元大雲

## 遺墨展二展開催

毎日展特別展示「松井如流展」は現在好評開催中でありますが、生誕110年記念として必見の遺墨展です。さらに8月中旬より本院創設の先達お一方の遺墨展が相次いで開催されます。是非ご高覧をお願いします。

## ・川崎白雲遺墨展

会期 平成22年8月20日～26日  
会場 高知市文化プラザ「かるぼーと」書道芸術院講習会会場

高知市鏡の「ギャラリー白雲」に収蔵されている2千余点より102点の代表作が陳列されます。22日には恩地春洋会長の講演が講習会院史として行われる予定。

## ・種谷扇舟展

会期 平成22年9月4日～10月24日  
会場 成田山書道美術館  
併催 千葉県書道協会役員展  
\*講演会

9月4日(土) 午後2時～  
講師 恩地春洋  
10月9日(土) 午後2時～

講師 岩波白鵬(千葉県書道協会会長)・高橋利郎(成田山書道美術館主任学芸員)

## 第62回毎日書道展会員賞 大隅晃弘さん受賞(近時)

第62回毎日書道展は本年国立新美術館のみでの開催となり、前期ⅠⅡ期、後期ⅠⅡ期の4期間計一か月の開催となった。審査結果は既にご承知の通りですが、本院より会員賞は近代詩文書部一名で、昨年前衛書一名と同じとなりました。やや寂しいですが毎日賞・秀作賞などは例年以上に頑張っていたできました。7月12日表彰式、院祝賀会では180名余の出品者が集合、大いに盛り上がりました。

文部科学大臣賞は静岡の作家遠藤枝苑さん(小山やす子社中)が受賞されました。詳しくは別掲特集をご参照ください。

## 尾形澄神書展Ⅱ故郷へⅡ 開催

3月まで本院事務局次長・書の教室編集担当としてご貢献いただいていた尾形澄神さんが、4月より故郷仙台に帰り、ご父君の跡を継ぐ形で活躍されております。活動母体も白扇会から宮城野書人会にかわられ、事務局を担当されております。故郷に錦を飾る勢いでの個展開催は誠に時機を得たもので、ご盛会を祈ります。

\*会期 8月13日～18日  
\*会場 仙台メディアテーク

## 2010夏 春洋会書展Ⅱ万葉の歌 併催 小林琴水書展 開催

毎年毎日展の時期にあわせ銀座文芸春秋画廊にて開催される春洋会の企画展。本年は表記のとおり一階で選抜会員による「万葉の歌」を一人一文、万葉仮名(真名)での発表。小品ながらそれぞれの表情を見せ、ユニークな展示となった。恩地会長の歌一首はほのぼのとして、賛助出品の石井明子さんのかな作品が彩りを添えて妙。

小林琴水書展は準備期間が短く苦労したといわれましたが、素晴らしい大作群で、観るものを圧倒していました。「瞬発」「山色健」は左から右への横書きで、自然な展開を感じさせ何より運筆のリズム、迫力ともに大きな動きをコントロールする技量の高さを見せていました。「姿」などの一字書は書くことの楽しさを、小品群はほっとする安らぎを感じさせてくれました。これからの活躍が大いに期待されます。

## 第23回毎日書道展研修団

このほど第62回毎日書道展会員賞・毎日賞受賞者より選抜され派遣される団員が、選考委員会により決定した。  
\*団長 辻元大雲 副団長 丸尾鎌使  
\*秘書長 山之内郁治(毎日事業部)

\*特別顧問 西林昭一  
\*団員 島田白露・武山櫻子(以上院関係2名)、ほか16名(計18名)  
\*訪中期間 9月17日～24日  
\*訪問先 北京・鄭州・洛陽・西安・蘭州



「2010夏の春洋会書展 併催 小林琴水書展」



『2010夏 春洋会書展 万葉の歌を合作』

## 現代詩文書 (五)

坂本素雪



雪の林檎園の風景

いい詩を見つけた時、書きたいと言う気持ちが生ずる。その詩文が放つ魅力に惹かれるからだ。詩意は心で感じ、美は眼から吸収する。そして、作品は脳で書かなければならない。書作構成にあたり、文体を重要視する人は、熟語を二行に分割したり俳句を大字小字の構成にすれば作家に失礼だとし、文としてもおかしいと、それを嫌う。しかし我々は書作家である。俳人、詩人の為に書作するのではなく、詩文はあくまでも素材である。その詩文全体から感ずるものをモノトーンの白と黒の空間芸術として制作する主役

でなければならぬ。詩人、俳人の作品も、一度、世間に発表し自分の手元から離れたら、後は受け止める側に委ねるしかないと思う。自己を語り、相手の心を打つ作品を作るかは、いかに生きた芸術を制作するかにある。

現在、書はまだ単なる伝達の手段だとし、芸術として認められないのは、色々な分野に配慮し、主役になりきれないのも一つの要因ではないだろうか考える。昨年、北の書人と言う、尊敬する先輩の手紙に「書家は作家の奴隷であってはならない」との文面があった。熱いものを感じた。



文体より句の意味を思い浮かべた作品

坂本素雪書

## 21世紀の書

— 私の主張 —

## 前衛書 (五)

平岡千香子



文字性・非文字性

昨年2月、毎日現代女流書展会場の渋谷東急本店から、一本の電話。新進作家展出品中の私の作品を購入希望されている方ありの内容でしたが、リーマンショックで話は没になりました。私はこの時「読める、読めないか」の判断ではなく、作品は「感動をいかに伝えるか」だと改めて実感。全く面識のない方から評価をいただいた事は大きな励みになりました。

私の書作は「文字性」——新聞、雑誌、小説などから眼に飛び込んでくる文字の中から「これを書こう（書かずにはいられない体感温度に達した状態）」↓草稿を練る↓小さい紙片に何度も何度も書く↓筆意を全身で覚えるまで作品と同サイズの紙面に書く↓よいよのるかそるかの大勝負。心を沈着冷静にし↓折るような気持ちで無心にがむしゃらに筆を運ぶ↓ほっとした気持ちになれる時と悔いが残る時。その繰り返しです。

「非文字性」——感動した事を象を抱えてあたためる↓殻を割ってヒナがかえるように体当りで紙面につつかって行く↓書き上げて空っぽ——そして新たな挑戦へ。

「イグアスの滝」新進作家展出品

平岡千香子書

# お稽古とはじめ

今 野 白 峰

(前衛書部・審査会員)

1951年もう半世紀以上前、就職が決定し、初出勤の日、作文を書かせられた。その状況を今でも思い出す。誤字・当て字・あげくには造字まであり、しかも文字そのものが判読不可能に近いものであった。そのころの書類はほとんど手書きであったから、これでは仕事にならなかった。そのため、数字を扱う部門にまわされ、文字を扱う仕事からはざされた。

当時の初任給は安く、給料だけでは生活ができないので、アルバイトを余儀なくされていた。ちなみにその時の月給は400円、今より物価が安かったとしても、とても暮らしていけるものではなかった。そのような状況では、習い事をする余裕とてなく、自分なりに工夫しながら、文字の練習をしていた。しかし、基本になるものが、何一つないという状況では、進歩を望むことが、出来ないのが当然のことで、何も得るものがなかった。

そのうち6年程経過したある日、上

司から誘われて、書道塾に通いはじめたのが、今は亡き師匠との出会いであった。やる気だけは充分であったのだが、基本的なことが、何一つ出来なかった。で、師匠としても手の施しようがなかったのかも知れない。この状態で3年程続けて、さすがに自分でもあきらめがつき、退塾の申し出をする。と、師匠から、3年間毎日半紙100枚書写するという課題をこなしてからなら、退塾してもやむを得ないと申し渡された。これには自分としても、意地にならざるを得なかった。当時体力には自信があったので、毎朝3時起床、2時間書きなぐってから朝食という生活を、四季を通じて3年続けた。その結果は今の自分に続くことになった。

書芸術は、線を基調とした芸術であるから、線がおろそかになっては意味をなさない。線の鍛練なくして書はなりたない、しかし単に線だけよければ、それだけでよいものではなく、一個いっこの文字のバランスが問題になっ

てくる。さらに、それらの前後・左右との調和がとれていないと、見た目にもすっきりとせず、さらに紙全体に対する書の位置というか、紙の余白の広さ・位置によって、文字そのものが違ったものに見える。つきつめていくと、空間の処理・空間と文字との位置関係は、絵画の製作技法や空間の処理と関係が認められる。

よく自分には素質がないからと、最初から諦めている人をみかけるが、本当に素質のある人は、存在するとは思うが、どのくらい居るものだろうか、無からは何も生じないから、根底には何かがあって、感のようなものができるのではなからうか、生活の環境によってか、学習することによってか、の相違にもよるだろうが、美意識的感覚は、一朝一夕に成るものではなく、時間をかけてできたものに本物がある。

昔から学書の方法に、先ず第一に、目習いといわれている。これを環境の面から考えると、身近に上手な人がいれば、目習いしていたことになり、まして親が達人であれば、幼児から目習いの学習していたことになる。幼児教育の大切さは、昔からいわれていることで、いまさら述べるまでもない。

しかれば、人生の半ばから始める人は、それだけ出遅れたことになり、それだけに努力を要することとなる。しかし、手習いを継続することにより、より良いものが出来るようになる。さらに、つねに他の人の作品を鑑賞することに

より、鑑賞眼の向上につながり、しいては、自分の技術の向上につながる。

「好きこそ物の上手なり」あるいは「継続は力なり」といった、古人の辞があるが、この辞の意味が今になるとよく理解できる。この「継続」とは継続して学習することを意味し、単なる続けるということではない。繰り返しくりかえして、学習することで、力がつくことを意味し、学習することが、好きでなければ、何度も繰り返して学習することができない。好きで、すきで、たまらないからこそ、継続して学習することができるのである。だから先ず好きになることが肝要である。これが「好きこそ物の上手なり」であり、「継続は力なり」である。

50数年学習してきて、学書の意味がなんとなく判りかけてきた。というのが、このごろの感覚であるが、長い書の歴史のなかで、たかが50年くらいでは、ほんの瞬間の出来事にもならないと思うが、「継続は力なり」を支えとし、もう一度学習方法を考え直し、誰にでも納得できるような、そして書とは縁もないような人々にも、愛されるような、もう少しましな作品を、製作できることが夢であり、そうなりたいと考えている昨今である。



特別研究部臨書課題

Ⅱ(全紙以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

〔解説〕宣示表は王羲之から王修に与えられ、修が没すると、その母が彼の愛惜していたこの名跡を棺に入れ葬ったので、この世から姿を消したという。唐の褚遂良の貞観書目や韋述の叙書録に王羲之書として登載されているから、唐代には王羲之の臨本があったと考えられる。

(編集部)

尚自疏。况未見信。今推款誠。欲求見信。實懷  
不自信之心。亦宜待之以信。而當護其未自信  
他。其所求者。不可不許。許之而反。不必可與。求之  
而不許。勢必自絶。許而不與。其曲在己。里語

※落款を必ず

入れる

署名、もし

くは〇〇臨

(押印のみ

も可)

尚自疏況未見信今推款誠欲求見信實懷  
不自信之心亦宜待之以信而當護其未自信  
也其所求者不可不許之而反不必可與求之  
而不許勢必自絶許而不與其曲在己里語

かな研究部

元永本古今集 (伝・源俊頼) ②

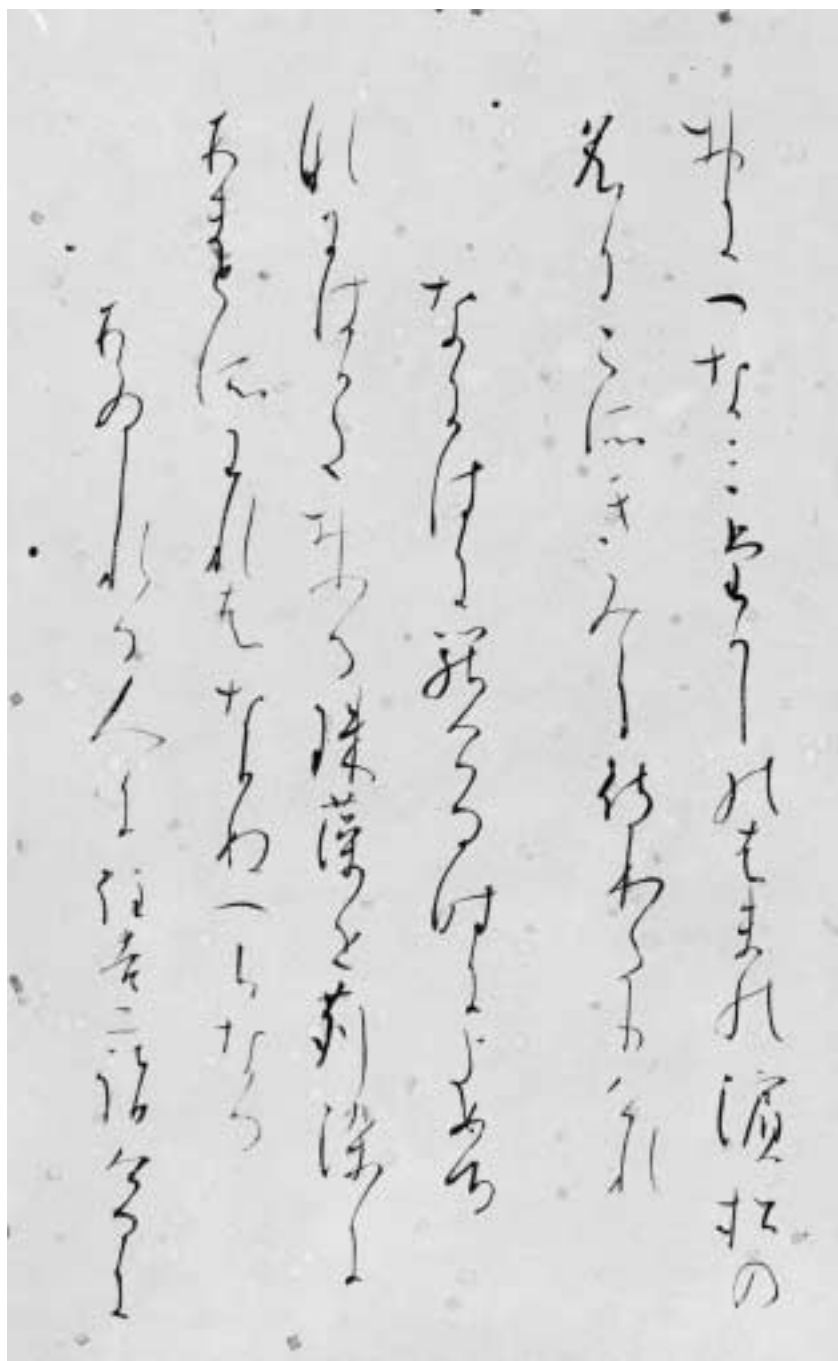
※上記の掲載歌一首  
以上を書く  
用紙・半紙普通判  
(料紙可)

※落款を必ず入れる。  
署名もしくは  
〇〇臨 (押印のみ可)

特別研究部臨書課題

Ⅱ (全紙以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

(86%縮小)



〈よみ〉

おきつなみたかしのはまの浜松の  
名にこそきみを待たりけれ  
なにはに罷ける時によめる  
なにはがたおふる珠藻を茹染に  
あまとぞわれはなりぬべらなる  
あるしれる人に、住吉に詣けるに

〈解説〉

元永本古今集の書風は、高野切第一種系統と言われている。字形は縦長の幅の狭い文字が多く、行も自然に流れている。技術的には、寸松庵色紙や関戸本古今集などと比べると同じ技法が繰り返され、単調さが目につく。その技法を補うために、漢字を多用したり、散らし書きや単体で綴る放ち書きなどを加えたと見える。

散らし書きは巻七あたりから散見し、巻十七の後半に至ると漢字がかなり多く使われてくる。この巻の漢字の使い方は前半のそれより、一層かなと融合しリズムも滑らかである。(編集部)

漢字規定 初段以上 【九月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

濱田尚川 選書

## 習い方解説 (五)

濱田尚川

### 夏雲多奇峰

(かうんきほうおとし)

夏の空の雲は種々なる形して  
奇態な峰を成すのである。

前号に肉づきを加え、線に厚みと動きの大きさをねらった。じつくりと深く沈める線に目を向けてほしい。特に争坐位文稿のような渾厚博大を以て勝れ、軽浮の念なく小細工のない書を求めたい。

構えを大きく懷を広く堂々とした太さを訴えてくる気分が大切。それにはもっと肉太く深い線を加えそして吊り上げた細い線を生かしていくことですね。どっしりと肉太で白が少なくなり苦しく重いかなど思っても、線が良ければその少ない白が生きてきて更に光った作になる。ふしぎですよねエ。



夏雲多奇峰

よみ (かうんきほうおとし)  
(夏雲奇峰多し)

書体 自由

漢字規定 秀級以下 【九月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

小川弘舟選書



樂以忘憂

よみ (楽しむ)て以て憂い(を)を忘る

書体Ⅱ楷書

## 習い方解説 (五)

小川弘舟

樂以忘憂 (楽しむ)て以て憂い(を)を忘る)  
人それぞれに、つらいこと、苦しいこともあるが、その中でも道を楽しみ、憂いを忘れる余裕と趣味をもつことです。

今月も、初唐の三大家の一人、褚遂良の「雁塔聖教序」を参考にしました。

雁塔聖教序の碑は、西安の慈恩寺大雁塔の入口に嵌め込まれてあります。繊細で変化に富んだ楷書で、筆先に神経を集中し、リズムの細かい動きと抑揚を加え、変化に富んだ線質で書きます。  
余白が美しく、格調高い最高の楷書といわれています。

かな規定 初段以上 【九月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

下谷 洋子 選書

## 習い方解説 (五)

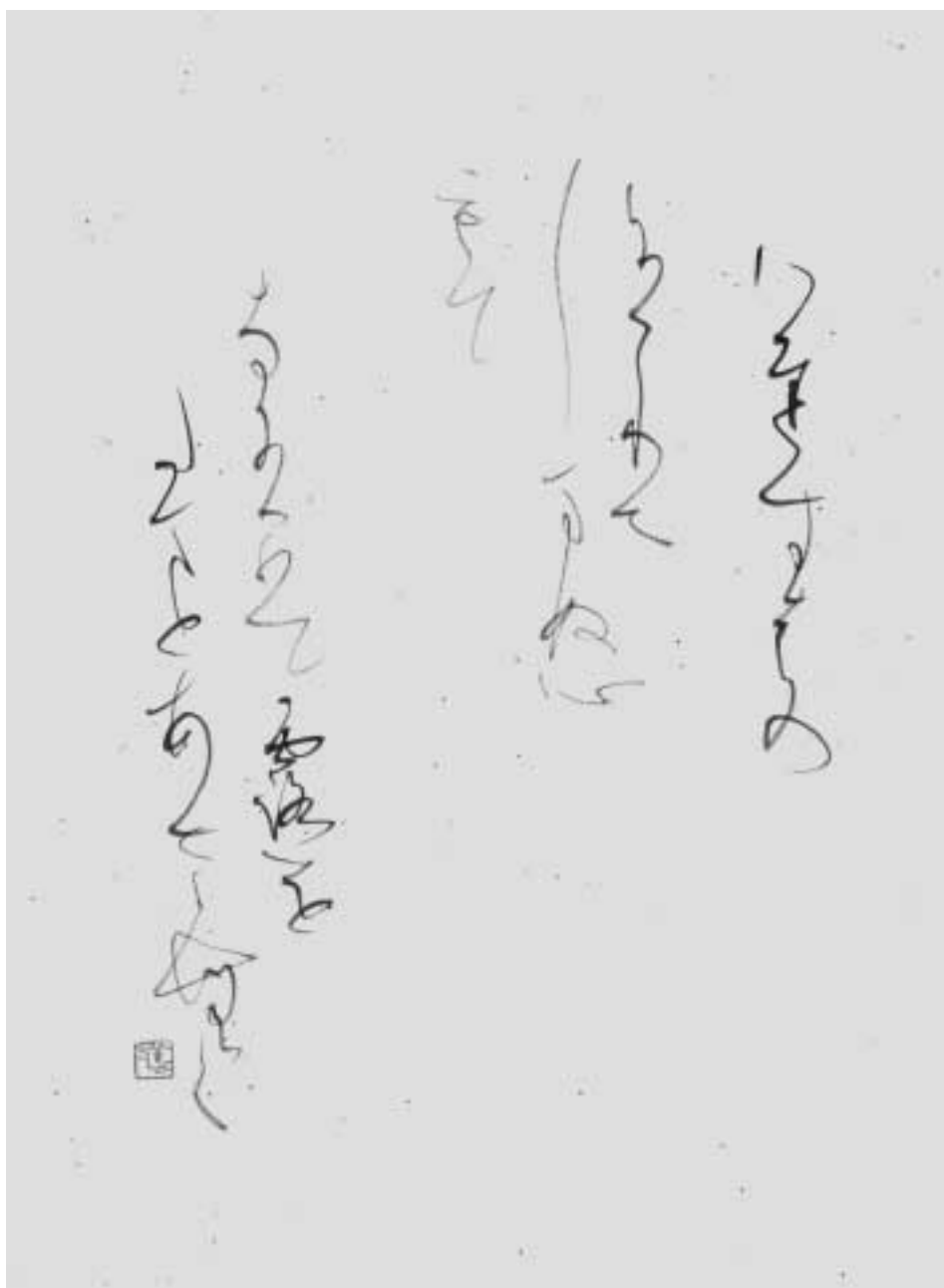
下谷 洋子

蓮葉の濁りに染まぬ心もてな  
にかは露を玉とあざむく

（古今和歌集・僧正遍照）

年に何回か古筆を観る機会があります。観る側の意識が変わるためか、何度でも新しい発見をします。寸松庵色紙の有名な「あきはぎの…」を拝見し、改めて鮮烈な墨の美しさのため息が出ました。シンプルな行書きで、取り立てて派手さはありませんが、一行の左右への動きの中で現れた間や、行間の得も言えぬ白の配分など、時代を超えてかな美の変化感の極致があります。ただ、その自然で無理のない静かな動きを支えているのは、やはり線の豊かさだと思ふのです。墨が鮮烈に見えるのも筆の浮沈（上下動）、線の肥瘦・転折の扱いなどの変化があつてこそ、なかなか難しいことですが、散らしの方法に気を取られすぎずには非会得したい用筆です。

大意 濁った水にも染まらない蓮の心なのに、何でもまた葉の上の露を玉だと欺くのか。



よみ方

は(ハ)ち(運)すば(者)のに(尔)こり(利)に(二)しま(万)ぬ心も(毛)て  
な(奈)に(尔)か(可)は(盤)露をた(多)ま(万)とあざむ(無く)(久)

創作

かな規定 秀級以下 【九月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野 切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方

よひのまにいでゝいりぬるみか(可)づきの  
われて(三)ものおも(毛)ふころに(尔)もあるか(可)な(那)

かな条幅規定 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

大辻多希子選書

## 習い方解説 (二)

大辻 多希子

庭の面はまだかわかぬに夕立の空  
さりげなく澄める月かな

各行の高低をなくし八行の並列にまとめ最後に歌集名を入れました。横作品は一行に収まる字数が少ないので連綿線も弱めないで行としての役目を作ります。字形は全体に横への動きを大きくして、中央部分では二字、三字とし、行間を書き出しより広くしました。最後の新古今しふ、も作品の一部です。気をぬかないよう注意してください。

よみ方

に(耳)は(盤)のお(於)も(毛)は(八)ま(万)だ(堂)か(可)わ(和)か(可)ぬに(二)  
夕立の(能)そ(楚)ら(羅)さり(李)げ(介)な(奈)くす(春)め(免)る(流)月か(可)な(奈) 新古今しふ

創作



出品券  
貼付位置

※よこ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田 藤扇 選書



漢國山河在 秦陵草樹深 暮雲千里色 無處不傷心

(漢國山河在り 秦陵草樹深し 暮雲千里の色 処として心を傷ましめざるは無し)

(荊叔)

書体Ⅱ自由

漢字条幅規定 秀級以下 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

吹田 紅扇 選書



物和則嘉成 (物和すれば則ち嘉成る)

春秋左氏傳

書体Ⅱ自由

## 習い方解説 (五)

半田 藤扇

五言絶句(20字)を二行構成に書作してみました。昇級試験の課題に「20字を臨書」があります。今回の作は、行・草の組み合わせで連綿を利かし、中心をくずさず、流れを取り入れました。筆は、愛用の牛耳筆使用。

## 習い方解説 (五)

吹田 紅扇

「楽器の音がよく調和すれば美しい音楽になる」天王が鐘を鑄造する際に楽官が進言したことば。伸びやかにまことよく書きましよう。

太目の羊毛中鋒を使用しました。

平城京の大きな特色は、条・坊で  
区切った都市としての区画が  
今もハッキリ地表面に残ってる  
ことです。ひととき、特集より小扇書

用紙Ⅱはがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体Ⅱ自由

## 習い方解説 (五)

小伏小扇

行書は一字一字が独立していても、前後の文字との脈絡を持っています。それは一字を構成する各々の点画も同様です。文字によって大きさや形も変わりますから柔軟に対応しなければなりません。一字一字の文字について書き流さず、「この文字はどのような概形を用いたら美しくなるか」と書く前に少し立ち止まるよう習慣づけることも大切です。

※落款を入れ忘れないようにしてください。(落款は自分の名前を入れてください。)

木一作品  
各部総評

NO. 590

ペン字部 師範 石井 光子

骨太の堂々とした重厚な書き方で力強さを感じさせる作品。空間を圧し最後まで書ききった秀作。  
◎ペン字部総評 行書の流れをうまく表現できた作が多かったが、中には流れすぎて弱い作もみうけられた。  
(蒼玄評)

漢字条幅部 師範 竹浪 叙舟

顔法の風を得て、安定感ある表現は滋味溢れる作となった。太細の変化が紙面に動きを与えて妙。  
◎漢字条幅部総評 全般的に低調な感あり。書体、書風の工夫や用具用材の研究に巾広く取り組んで常に新しい発見を。  
(大雲評)

螢穿濕竹流星暗魚  
動輕荷墜露香

現代詩文書部 特選 奥田 嵩柏

淡墨、連筆での書作ながら、スケール大きく丁寧な書きぶりの中にリズム的で力強い線魅力的。  
◎現代詩文書部総評 詩文(ことば)との出会い(感動)を大切に書作を味わって下さい。(堂光評)

前衛書部 特選 西岡 悦子

大胆な弾力を生かし潤渾の線と構成がマッチした魅力的な表情と豊かさを受ける作品である。  
◎前衛書部総評 最近多様な構成筆線墨色等研究されていて充実した作品が多く頼もしい。(如水評)

かな条幅部 師範 都丸みどり

筆にゆだねるような穏やかな線と優しい墨色が創り出す世界は静かな癒しです。無理なく爽やか。

◎かな条幅部総評 全般に創意の姿勢が見られ好感を持った。落款のない作多出は残念。又、かなに相応しい印使用のこと。(明子評)

けさの香  
ふたつにうたがへて 袖のそと

漢字部 師範 鎌形 史遊

癒し系の書と言うべきか。鍾繇の「宣示表」を思わせる無欲さがよい。古法も学んでいる人らしい。  
◎漢字部総評 書は線質が命。初級の段階から強い線を引くよう鍛錬したい。その為用紙の選択も肝要。  
(翠風評)

窮探  
極覧

かな部 師範 寺埜 康

僅か後半を変えたただだが、字組みが巧く前半とも違和感なく調和した。柔らかな表情が現れ見事。  
◎かな部総評 文組みはそのまま、行構成を変えるだけで趣も変わります。創作への手掛かりとして工夫窺え好ましく拝見。  
(洋子評)

入梅の  
あけぼの  
うさぎ

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

かな (書泉)

田村玲子

「雲まよふ」



佐藤華炎書

61×135cm

現代詩文書

(炎佳)

佐藤華炎

「清岳こうの詩」

◆あたかも軽音楽を奏でるようなリズム感に溢れた作。独特の墨色が妖しい雰囲気醸し出す。  
(大雲評)

◆墨だまりを置いてゆく構成は手の内の技巧だが渴筆の所もほしい気がする。更なる次の段階は何か?  
(蒼玄評)

◆墨象を思わせる文字の群は行間のとり方が魅力となっている。工夫された墨色は稍疑問が残ります。  
(明子評)

◆墨の使い方が微妙な変化を表現して細字のうるさを消してくれている。一字一字がはねているよう。  
(倫子評)



田村玲子書

135×70cm

◆抑制のきいた文字で構成に魅力を加えた爽やかな作品です。勢い余った誤字終行五字めが残念です。  
(明子評)

◆右中央から左上への構成に新鮮味が感じられ、運筆の冴えが爽快な雰囲気醸し出す。落款位置一考を。  
(大雲評)

臨書 (千葉)

大内熒軒

「北海王元祥造像記」



135×70cm

大内熒軒臨

◆大きな紙にのびのびと表現。筆が少し細かったのか、原本のたっぷりとした強さに乏しい。力あるので。  
(倫子評)

◆原本の骨力、大らかさをよくとらえているが、やや浮わつた線が不安定な感を与える。更に向上を。  
(大雲評)

◆筆先の廻転が体全体の動きを感じさせてくれる。流れの美しさに筆が走りすぎる所もあるので……  
(倫子評)

◆切れのよい線で空間に響く、リズムが早いと調子書になるがよ紙にくいこんで落着いた作品となった。  
(蒼玄評)

◆力強さと素朴さを併せ持つこの碑の特徴をよくとらえている。墨と紙の相性が少し渴筆がういたか。  
(蒼玄評)

◆元をよく捉えながら、そこにとどまらない力を感じさせられます。墨の力と表現力が楽しめました。  
(明子評)

## 「真民の詩」 長島儼雨



146×62cm

長島儼雨書

## 前衛 (青蓮社) 大町菜円

「新世界」



61×136cm

大町菜円書

◆ 軽やかな運筆のリズムが鮮烈な潤渇の変化を生み印象的な作。落款印の大きさと位置が平凡だったか。

(大雲評)

◆ 細い筆の回転による飛沫が鮮かに目に映る。真夏の庭に回る散水器を思わせる清々と若さを感じさせる。

(蒼玄評)

◆ 表現する度に新しい世界に出会っている作者の幸福が伝わります。雅印にも遊び心のあるものを。

(明子評)

◆ 体から伝って来る動きを感じます。モダンな構成の作品に落款印の位置印字が合わない感じ一考を。

(倫子評)

## 漢字 (二葉) 小野原紅華

「衆鳥」



181×57cm

小野原紅華書

◆ 言葉と表現の一体感が見事で圧倒されます。うまさでない、頑張りすぎないものへ挑んでみては？

(明子評)

◆ 墨の濃淡が巧妙に表現。筆のはしりが激しく感じるが少し呼吸を止めた所があれば落ち着き出るかも。

(倫子評)

◆ 潤渇の変化が紙面に動きを与えて、広がりある作。切れ味鋭い細線が効果を与えているが上すべりも。

(大雲評)

◆ 懐が大きくゆとりを感じさせる作品だ。潤渇太細もあり多彩な線質であるが「大」の最終画は太さがほしい。

(蒼玄評)

◆ のびのびと表現。構成も墨の濃淡を使って上手に表現されている。落款が本文とあわない感じがする。

(倫子評)

◆ 隸書表現は沈着安定をねらうが、本作はやや速いリズムで独特の味を出す。もう少しくい込みがあれば。

(大雲評)

◆ 隸意をとらえて雄大に横の広がり表現した。濃淡も美しう得ているが少し墨が濃いかもしくない。

(蒼玄評)

◆ 自由自在な表現力を駆使し、大らかに出来上った作は見応えあり。渇筆の美しさに特にひかれます。

(明子評)

創作の部(70点)

漢 8点

か 9点

現 29点

篆 1点

前 23点

臨書の部(34点)

漢 26点

か 8点

総出品点数

104点

特選候補者

漢

大雲 大隅晃弘

か

卯月 新谷嵐景

現

水壑 伊澤 香雨

珪翠 佐々木珪翠

前

蓮紅 浅野 彩紅

四谷 木原 尚子

漢字研究部  
(北海王元詳造像記)

選評 村野大仙

今月のホープ作品



本郷谷恵

漢字研究部 特選 本郷 谷恵  
用紙いっぱいに書き上げながら窮屈感のない伸びやかな作である。筆画をゆったりと引き抜く運筆の心情に乱れがない。文字造形や配字の統一感に優れよく調和し美しい。真摯な臨書態度に敬意を表します。

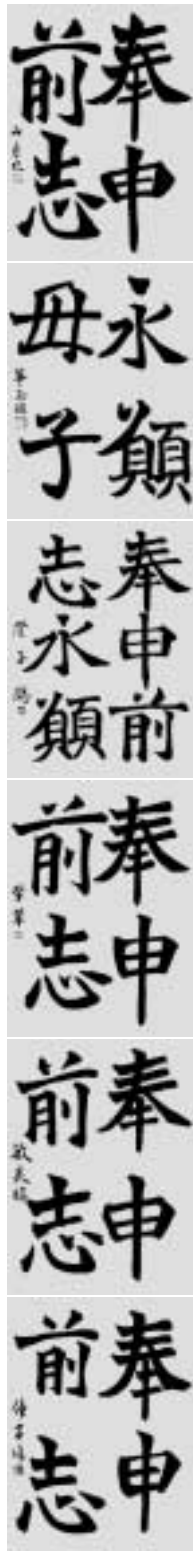
◎漢字研究部総評

課題の文字群をよく観察して、横画一本、はね方一つを見ても唐代の楷書との違いに気が

が付く努力をしたいものです。文字の表面上の姿にとらわれ用筆や運筆の呼吸を無視して学んでは、いつまでたっても六朝書の本質に迫ることは出来ないでしょう。形を真似て作るのではなく、筆意を探索してその心を感じとることが大切です。形はそこから生まれ出るものです。臨書は原本を座右に置いて謙虚に対峙し、とことん真摯に学びとって下さい。



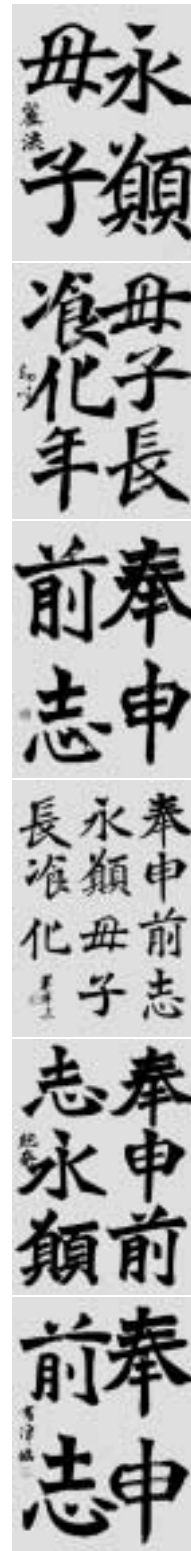
清美 千裕 美子 千裕 美子



山房 澄子 紫子 敏子 優子



逢春 竹葉 初江 須子 悦子 秀子



麗流 直子 翠峰 純奈 有津



〔特別昇級試験臨書課題〕

高 貞 碑（楷書）

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から5字を臨書・それ以外は不可



除秘書郎。僚麟閣／而來儀。瞻石渠／而來

蘇孝慈墓誌銘（楷書）

漢字部

第三種

半紙に写真掲載の中から24字／30字を臨書・それ以外は不可



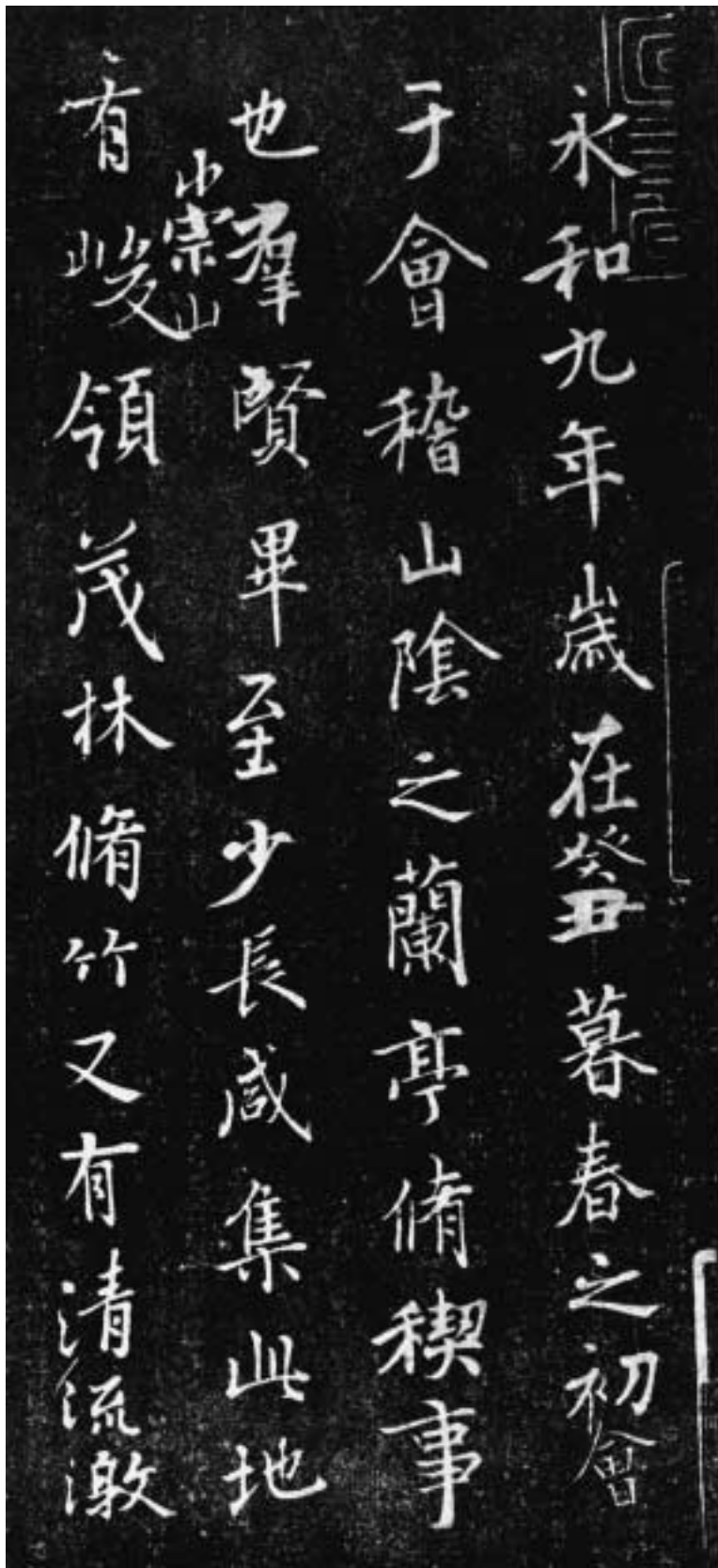
魏・驃騎大將軍開府儀同三／司充雲二州刺史平遙郡開／國公贈綏銀延三州刺史時

張金界奴本蘭亭叙（行書）

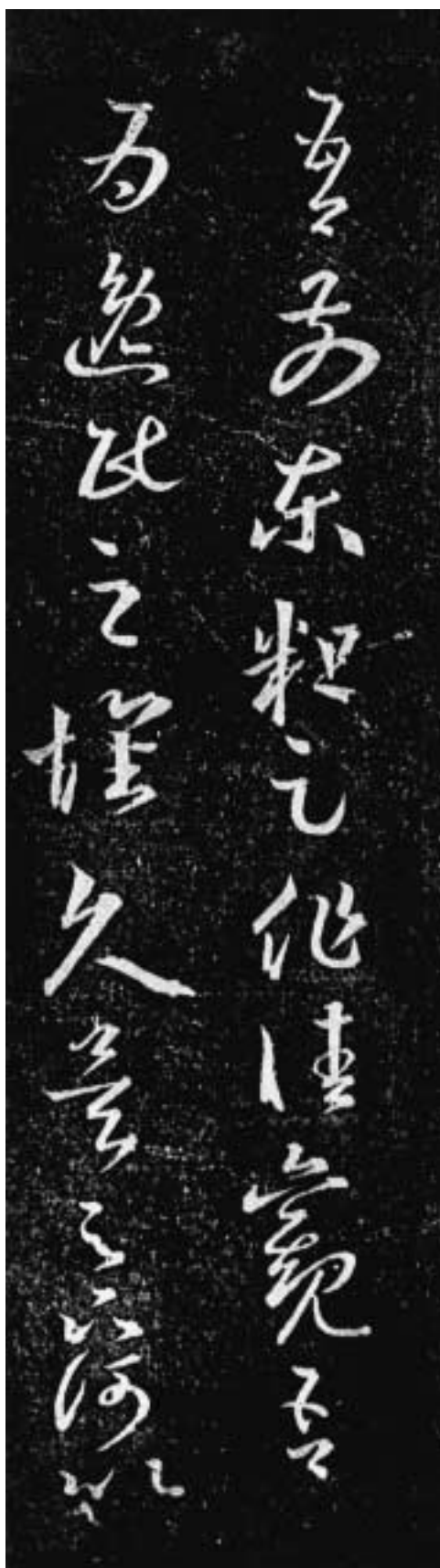
漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から12字を臨書・それ以外は不可



永和九年。歲在癸丑。暮春之初。會于會稽山陰之蘭亭。脩禊事也。群賢畢至。少長咸集。此地有崇山峻嶺。茂林脩竹。又有清流激



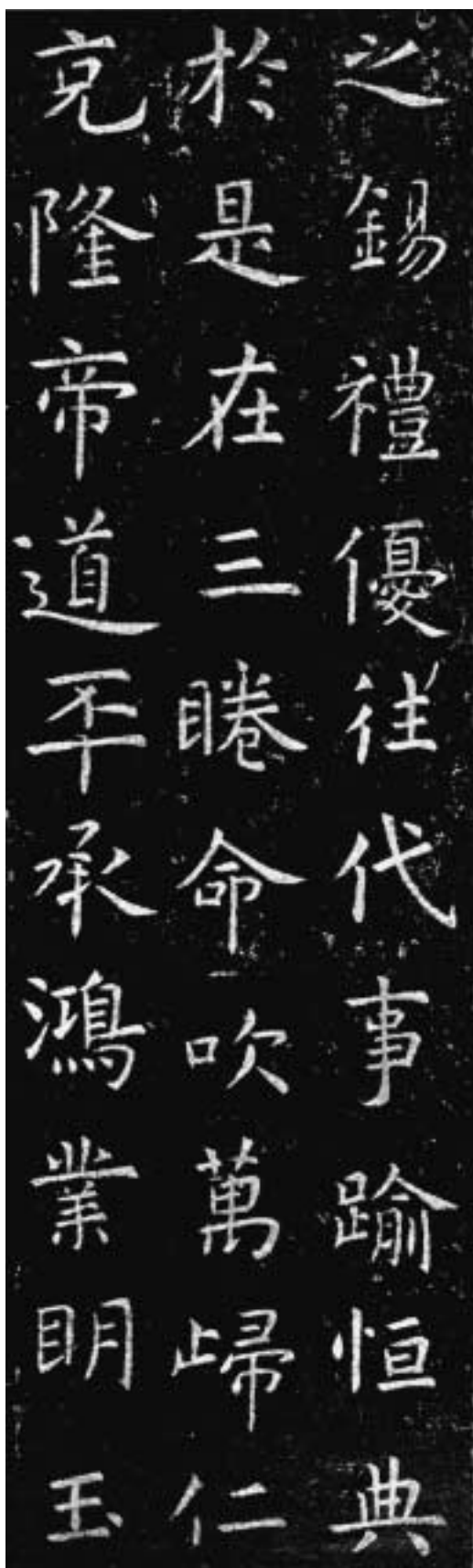
吾前東粗足作佳觀。吾爲逸民之懷久矣。足下何以

孔子廟堂碑（楷書）

漢字条幅部

第二種

半切に写真掲載の中から14字を臨書・それ以外は不可



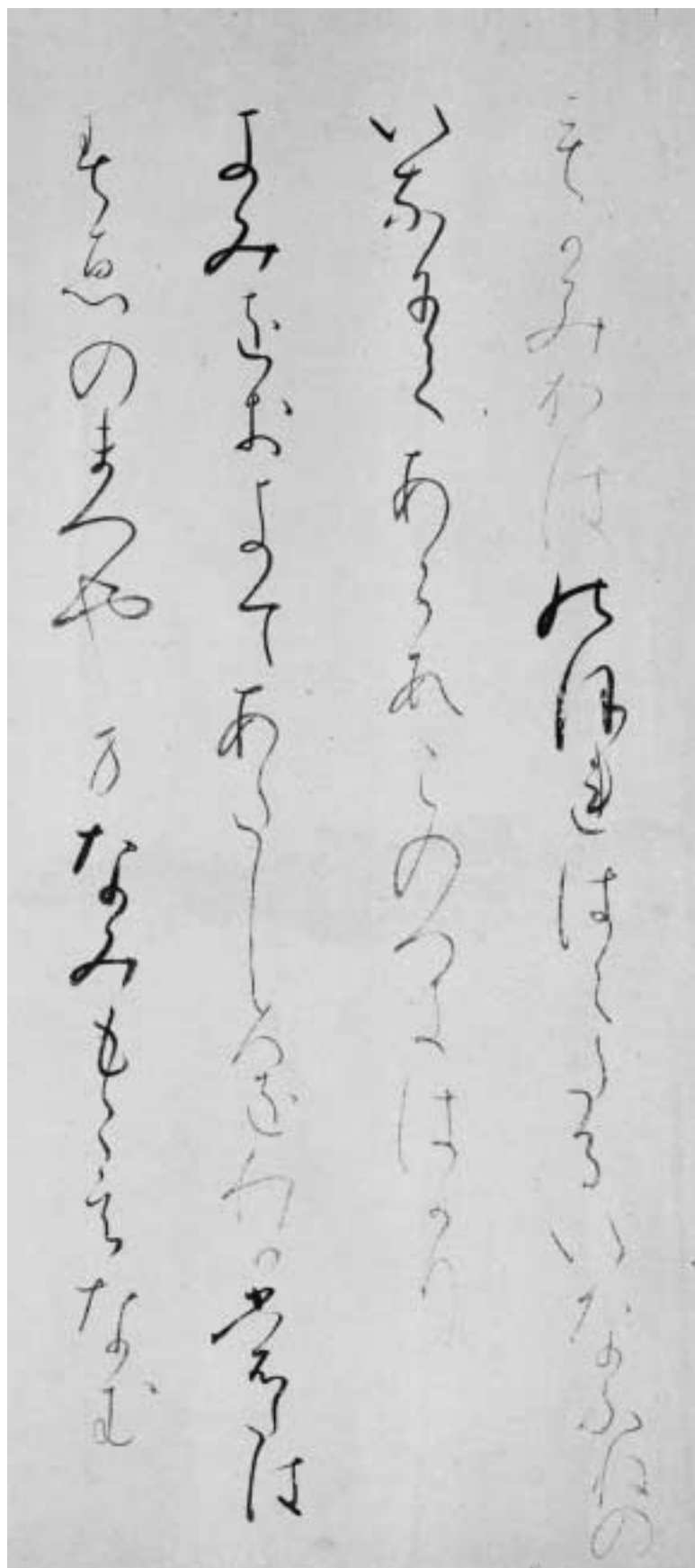
之錫。禮優往代。事踰恒典。／於是在三睭命。吹萬歸仁。／克隆帝道。丕承鴻業。明玉

高野切第一種

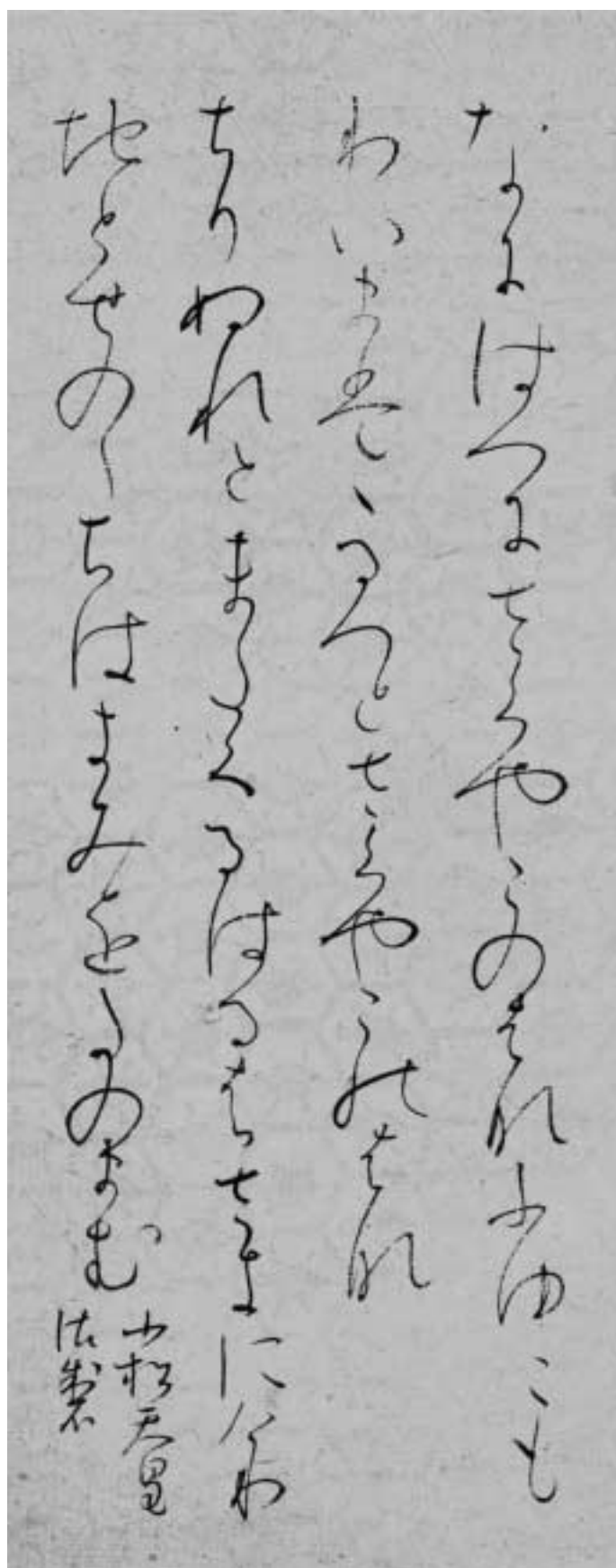
かな部

第一種

半紙に写真掲載の和歌・二首を書く・それ以外は不可（料紙可）



毛可美  
もがみはのぼればくたるいなふねの／いなにてあらずこのつきばかり  
支多能保連久多  
きみをおきてあだしごころをわがもたば／すゑのまつやまなみもこえなむ  
支多可美多奈尔旦数支可



なにはづにさくやこのはなふゆごも／りいまはゝるべとさくやこのはな  
尔 久 者 那 多 久 者 支 介 利 地 盤 支 多 能 者 那  
 ちりぬれどまたくるはるはさきにけり／ちとせのゝちはきみをたのまむ  
小松天皇御製



あきぐりの<sup>支</sup>は<sup>利</sup>れて<sup>能</sup>くも<sup>且</sup>れば<sup>久</sup>を<sup>那</sup>みなへ<sup>者</sup>／し<sup>那</sup>は<sup>春</sup>なの<sup>可</sup>すが<sup>毛</sup>たも<sup>可</sup>みえ<sup>久</sup>かく<sup>春</sup>れする

### ご注意!!

**名前のかき方**  
どの部も氏名または名、号を書く。  
臨書は○○臨と書く。  
印だけでは失格、特にかな・ペン字は注意のこと。

表紙写真「宣示表」

### お知らせ

8月12日(木)

～

16日(月)

事務所は、夏季休業させていただきます。  
よろしく願いたします。

(財)書道芸術院

出品券 9月15日締切

※9月号の課題予告は  
44ページに記載。